**高松盆栽の郷**

高松市は、日本における盆栽の主要な生産地であり、国内の松盆栽の約80%を生産しています。国分寺地区とその周辺の鬼無地区は特に盆栽で有名です。この地域で運営されている約60の盆栽庭園または種苗場で栽培されています。これらの業者のいくつかは、地元の生産者が海岸沿いや瀬戸内海の島々で非常に一般的なクロマツを使用して盆栽を作り始めた19世紀初頭から営業しています。

高松の職人たちは、この地域に深く根ざした果樹栽培で得た植物知識と剪定技術を活かし、盆栽の栽培を産業に発展させました。江戸時代が終わった1867年まで、盆栽は貴族や高位の武士が中心の趣味でしたが、世紀の変わり目から幅広い人気を博しました。第二次世界大戦後の急速な経済成長も後押しとなり、高松の盆栽産業は繁栄しました。これはすべて、地元の比較的温暖な気候によって可能になりました。降雨量が少ないことと相まって、この地域は丈夫な松を育てるのに理想的な場所です。

国分寺にある高松盆栽の郷は、盆栽の栽培や技術を学ぶことができる施設です。この目的のためにさまざまな研修会や授業が提供されています。さらに有名なのは市場で、全国の盆栽のプロを魅了しています。高松の40以上の盆栽栽培業者がこの市場で販売を行っており、購入予定者は約10,000本の木から選ぶことができます。小型の盆栽は10年から15年かけて成長してきましたが、大型の盆栽は販売される前に種苗場で40年もかけて巧みに形作られる場合もあります。